

第2章 歴史文化資源の概要

1 指定・選定・選択・登録文化財

広大な面積を有する本市は、令和7（2025）年3月現在において、国指定・選定42件、国選択2件（うち1件は県指定と重複）、県指定117件、市指定775件、国登録22件の合計957件という県内でも他に類を見ない多数の指定等文化財が所在しています。類型別でみると、有形文化財585件、無形文化財8件、民俗文化財78件、記念物284件、伝統的建造物群2件という現状であり、最も多い有形文化財が全体の61%、次に多い記念物が全体の29%を占め、両方を合わせると90%を超えます。

本市の指定等文化財の特徴としては、有形文化財は彫刻や建造物、記念物は城跡や墳墓等の史跡、樹木等の天然記念物がとりわけ多く指定されていることが挙げられます。

また、文化財の保存技術は高山・祭屋台保存技術協同組合の技術者が祭屋台等製作修理技術者会の会員として祭屋台等製作修理技術に選定されています。

■指定等文化財件数（令和7年(2025)3月）

種 別		国指定・選定	国選択	県指定	市指定	国登録	計	
有形文化財	建造物	15	－	15	77	21	128	
	美術 工芸品	絵画	0	－	5	42	0	47
		彫刻	3	－	16	106	0	125
		工芸品	3	－	7	60	0	70
		書跡	0	－	5	32	0	37
		典籍	0	－	1	7	0	8
		古文書	0	－	0	87	0	87
		考古資料	2	－	4	46	1	53
		歴史資料	0	－	3	27	0	30
無形文化財		0	－	0	8	0	8	
民俗文化財	有形の民俗文化財	4	－	4	38	0	46	
	無形の民俗文化財	2	1(1)	8	21	0	32(1)	
記念物	遺跡	5	－	16	105	0	126	
	名勝地	0	－	1	10	0	11	
	動物、植物、地質鉱物	6	－	32	109	0	147	
文化的景観		0	－	－	－	－	0	
伝統的建造物群		2	－	－	－	－	2	
計		42	1(1)	117	775	22	957(1)	

※国選定の重要伝統的建造物群保存地区「高山市三町伝統的建造物群保存地区」の特定物件は182件（うち指定文化財は2件）

※国選定の重要伝統的建造物群保存地区「高山市下二之町・大新町伝統的建造物群保存地区」の特定物件は219件(うち指定文化財は4件)

※県指定の水無神社の神事芸能は、「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」(いわゆる国の記録選択)にも選択されているため、表中は()とした。

(1) 有形文化財

① 建造物

市内に、指定等文化財が128件(国指定15件(うち国宝1件)、県指定15件、市指定77件、国登録21件)あります。

寺院は、飛騨地域で唯一の国宝建造物である**安国寺経蔵**(国宝)があります。室町時代初期の応永15年(1408)の建立で、日本最古の輪蔵が現存します。この他、室町時代の建築に**国分寺本堂**、**照蓮寺本堂**(国指定)などがあります。高山城からの移築と伝わる**法**



写真 18 安国寺経蔵

華寺本堂(県指定)、**雲龍寺鐘楼門**、**素玄寺本堂**(市指定)、**大雄寺鐘堂**、**三重塔**(国分寺)(県指定)、**大雄寺山門**、**国分寺表門**(市指定)など飛騨匠が建てたとされる江戸時代の建造物も多くあります。

神社は、**荒城神社本殿**(国指定)は明徳元年(1390)再建、**阿多由太神社本殿**(国指定)、**熊野神社本殿**(国指定)は室町時代の建立であり、部材はいずれも地元のサワラ、ヒノキ、スギなど、現在は入手困難なほどの良材を用いて造られています。この他、高山城から移築された**神明神社絵馬殿**(県指定)などがあります。

住居・民家のうち町家は、市内で最も古い江戸時代後期の建築である**松本家住宅**(国指定)や、明治時代に建てられた豪商の町家である**日下部家住宅**、**吉島家住宅**(国指定)などがあります。農家建築は、飛騨の各地域から飛騨民俗村飛騨の里に移築保存し、展示している**旧若山家住宅**、**旧田中家住宅**、**旧田口家住宅**、**旧吉真家住宅**(国指定)などがあります。

産業・交通・土木のうち料亭は、県内最古の料亭で、江戸時代の町家の表構えを残す主屋と、地元大工により整えられた端正な意匠の座敷をもつ客間棟が地域の特色を伝える近代和風建築の**洲さき**(国指定)と、武家建築をルーツにもち正面玄関の式台などが特徴の**角正**(市指定)があります。この他、近代の役場建築として**旧高山町役場**、**旧大八賀村役場**(市指定)が、近代の学校建築として**旧黒谷小学校六廐分校**(市指定)があります。

石造物は、いずれも寺社所有のもので、「(飛騨) 国中最初石鳥居」と伝わる**天満神社石造鳥居**(市指定)や、丹生川地域の**石燈籠**(北方白山神社、法力熊野神社、瓜田伊太祁曾神社、いずれも市指定)、城郭のように強い反りのある**本覚寺の石垣**(市指定)があります。

② 絵画

市内に指定文化財が47件(県指定5件、市指定42件)あります。大半は寺社が所有するものであり、神仏や所縁のある武将の肖像などが描かれています。素玄寺に伝わる**金森長近肖像**(市指定)は、狩野派の画風で、元禄頃に作成された原画を安政3年(1856)に模写したものです。

③ 彫刻

市内に指定文化財が125件（国指定3件、県指定16件、市指定106件）あります。木造薬師如来坐像と木造観世音菩薩立像（国指定）は、ともに飛騨国分寺に所在する平安時代の彫刻です。塑像瑞巖和尚坐像（国指定）は、安国寺の開山である瑞巖の肖像彫刻で、木芯に厚さ約1センチメートルを漆で固めており、現在は開山堂に安置されています。円空作仏像が多く59件が指定されています。代表的なものは木造円空作仏像（千光寺所蔵、県指定）で、『日本書紀』の仁徳天皇の時代に登場する飛騨の豪族である両面宿禰をかたどった両面宿禰坐像があります。

④ 工芸品

市内に70件（国指定3件（うち国宝1件）、県指定7件、市指定60件）あります。鎌倉時代の青江波の太刀で薩摩の島津家に伝わった太刀銘康次（国宝）をはじめ、刀剣の指定が多くあります。また、鰐口（大隆寺所蔵、県指定）や梵鐘銘建武元年三月十二日（照蓮寺所蔵、県指定）など寺宝として各寺院に伝わったものも指定されています。この他、高山にゆかりのある武将に関する工芸品として、金森長近が豊臣秀吉から拝領したと伝わる鶴毛陣羽織（素玄寺所蔵、市指定）などがあります。



写真 19 鶴毛陣羽織

⑤ 書跡

市内に指定文化財が37件（県指定5件、市指定32件）あります。円空袈裟山百首（千光寺所蔵、県指定）や田中大秀書扁額（市指定）など、高山の歴史に深い関わりのある人物が書いたものが指定されています。また、一切経並春日版大般若（県指定）は安国寺経蔵の輪蔵内に収められている木版一切経で、寺僧が中国から持ち帰った5,397巻のうち2,208巻が現存しています。

⑥ 典籍

市内に指定文化財が8件（県指定1件、市指定7件）あります。荏野文庫（県指定）は国学者田中大秀の著述本や手拓本519部1,516冊あり、飛騨の国学の歴史を知る上で欠かせない史料です。この他、斐太後風土記（市指定）など高山の歴史に関わる記録などがあります。



写真 20 斐太後風土記

⑦ 古文書

市内に指定文化財が87件（いずれも市指定）あります。荒川家六ヶ村年貢割付帳（市指定）など、江戸時代各村で作成し、保管されてきた検地帳や五人組帳などの史料が多く指定されています。この他、肴屋株免許状（市指定）など商業関係の史料の指定もあります。また、大原騒動の傘状連判状（市指定）など民衆運動、争論関係で作成された史料も指定されています。

⑧ 考古資料

市内に指定文化財が52件（国指定2件、県指定4件、市指定46件）あります。**浅鉢形土器**（国指定）をはじめ縄文時代の遺跡から出土したものが多く指定されています。また、**光寿庵跡出土瓦**（県指定）などのように、古代飛騨の発展と飛騨匠の活動のようすを伝えるものもあります。この他、江戸時代に集められた**二木長嘯収集石器類**（国指定）、昭和初期に集められた**飛騨地域考古資料（江馬修菟集品）**（国登録）など、収集資料についても指定や登録がされています。



写真 21 光寿庵跡出土瓦

⑨ 歴史資料

市内に指定文化財が30件（県指定3件、市指定27件）あります。**角竹郷土史料文庫**、**高山町会所文書**、**官材画譜**を含む**富田家資料**（いずれも市指定）など、高山の歴史を知る上で重要な史料群が指定されています。



写真 22 高山町会所文書

(2) 無形文化財

市内に指定文化財が8件（市指定）あります。

管粥神事（市指定）は、丹生川町旗鉢にある伊太祁曾神社で毎年1月14日に行われる神事で、境内に窯を築き五種類の穀物を煮て、粥状になると管（麻ガラ）を入れ、粥の入り具合によって良悪を占うものです。その他、金森家二代可重の長男である金森宗和によって生み出され「姫宗和」とも呼ばれた茶道の流派である**宗和流茶道**（市指定）や、**伊勢神楽**、**采踊り**（いずれも市指定）といった芸能があります。

また、丹生川町の折敷地、久手、下保に、庚申の日に村の有志が集まりお経を唱え、数珠繰りをして人々の健康や豊作を祈る**庚申講**（市指定）があるほか、一之宮町は、約330年前からイチイやヒノキを材料に作られ、軽さと通気性の良さが特徴の**官笠**（市指定）が作られています。

(3) 民俗文化財

① 有形の民俗文化財

市内に指定文化財が46件（国指定4件、県指定4件、市指定38件）あります。**飛騨のそりコレクション**（国指定）は、冬に木材や石材などを引き出すために使用された様々なそりを集めたもので、雪質や地形に合わせた在来型と、個別に改良が加えられた改良型があります。その他、**荘川の養蚕用具**、**飛騨の山村生産用具**（いずれも国指定）、**わらび粉作り道具**（県指定）は、



写真 23 高山祭屋台

山国である飛騨の養蚕用具や農具などを収集したもので、地域の生産生活の特色をよく表しています。

また、春と秋の高山祭に曳き出される絢爛豪華な**高山祭屋台**（国指定）23基や東山白山神社、飛騨総社の神楽台などがあり、祭礼を彩ります。

その他、天明3年（1783）に、大工などに火消方の役を勤めさせたことに始まる高山消防組が使用した用具である、**神明講火消用具**、**愛宕火消用具**、**東講火消用具**（いずれも市指定）や、**春慶塗用具**、**芳国舎波草陶磁器製造所**（いずれも市指定）など、工芸品の製作に使用される用具などが遺されています。

② 無形の民俗文化財

市内に指定等文化財が32件（国指定2件、国選択2件（1件は県指定と重複）、県指定8件、市指定21件）あります。**江名子バンドリの製作技術**（国指定）は、江名子町に伝承されるバンドリと呼ばれる蓑を製作する民俗技術で、蓑を着けた人の姿がムササビ（飛騨地方の方言でバンドリ）に似ているためこの名が付けました。その他の製作技術として、久々野町に伝わる**小屋名しょうけ**（県指定）や**有道杓子**（市指定）があります。



写真 24 高山祭の屋台行事

祭礼行事は、**高山祭の屋台行事**（国指定）があります。高山祭とは、毎年4月14、15日に行われる日枝神社の例大祭である山王祭と、10月9、10日に行われる櫻山八幡宮の例大祭である八幡祭の総称で、それぞれ山王祭12基、八幡祭11基の華麗な屋台が登場し、からくり奉納などが行われます。その他、明治40年頃に始まったもので、7年に一度行われる**ひねりの舞**（県指定）があります。

祭礼で行われる神事芸能の一つである獅子舞は、獅子が退治される構成をもつ**国府町金蔵獅子舞**（県指定）、**金蔵獅子**、**槍獅子**（いずれも市指定）や、**飛騨天満宮獅子舞**、**千島白山神社獅子舞**（い

ずれも県指定）などの徳兵衛獅子、**東照宮おかめ舞獅子舞**、**荒城神社鉦打獅子舞**（いずれも県指定）があります。また、この地域独特の神事芸能で鉦打と呼ばれる**一重ヶ根鶏芸**（県指定）があります。民踊は**高山おどり**（県指定）、**飛騨やんさ**、**荘川甚句**（いずれも市指定）があります。



写真 24 車田

その他、松之木町車田で伝承されている車状に田を植える農耕習俗である**車田**（県指定）や、**松之木七夕**（市指定）、200年以上の歴史をもつ高山独自の粋な文化である**飛騨高山の飾り物**（市指定）などがあります。

市内に国の選択文化財が2件あります。**飛騨の絵馬市の習俗**は松倉山観音堂、池本屋、山桜神社などで開かれる絵馬市です。参詣者は境内などで売られる紙絵馬を購入し、家内安全などを祈願します。また、**水無神社の神事芸能**（県指定と重複）は、毎年5月1、2日に一之宮町にある水無神社の例大祭で行われる鬮鶏楽、神代踊、獅子舞からなる芸能規模の大きい風流芸などの一種です。

(4) 記念物

市内に指定文化財が 284 件（国指定 11 件、県指定 49 件、市指定 224 件）あります。

① 遺跡

高山陣屋跡（国指定）は、高山城主金森氏の下屋敷（向屋敷）として使われていたもので、飛騨が幕府直轄地となってからは、慶応 4 年（1868）まで 176 年間にわたり陣屋として代官や郡代がここで政治を行いました。明治維新以後は高山県庁舎等として使用され、岐阜県飛騨支庁等を経て昭和 44 年（1969）まで飛騨県事務所となっていました。幕末に全国に 60 箇所以上あったといわれている郡代・代官所の中で、唯一当時の主要な建物が現存します。



写真 25 高山陣屋跡

こう**峠口古墳**（県指定）は、宮川右岸の段丘上に位置する、築造年代が 6 世紀後葉と推定される前方後円墳です。墳丘の全長が 72.7 メートルで、内部は流紋岩の割石を用いて構築した横穴式石室となっています。「斐太後風土記」「飛騨国中案内」「飛州志」などの記述から江戸時代中期にすでに開口していたとされ、副葬品は盗掘によりほとんど残っていませんが、県下最大級の石室を有する、飛騨地域を代表する前方後円墳として知られています。**松倉観音**（市指定）は、普門院、大悲閣、お籠堂からなり、合わせて通称松倉観音堂といわれています。元禄 5 年（1692）の金森氏の移封後、高山の僧侶、天覚高幢が京都の泉涌寺から帰郷し、松倉山窟に馬頭観音の堂（普門院）を建てたのがはじまりです。素玄寺の守護により、旧暦 7 月 9 日に参詣者が堂の内外に宿泊し養蚕の繁栄を祈り、翌 10 日に馬を飾り参詣し、牛馬の無病息災を祈願しました。この風俗慣習が現在の松倉絵馬市として遺されています。

② 名勝地

宇津江四十八滝（県指定）は、標高 1,519 メートルの猪臥山の懐を源として流れ出す溪流が、奇岩怪石の間を流れ下って、「魚返滝」「平滝」「王滝」など 13 の滝を造り出し、四季折々に趣を変える姿はまさに絶景で、昔から文人墨客が多く訪れている景勝地です。



写真 26 宇津江四十八滝(上段滝)

③ 動物・植物・地質鉱物

飛騨国分寺の大イチョウ（国指定）は、樹齢が約 1,200 年と推定され、目通りが約 10m、高さが約 27m の巨木です。樹幹の所々が乳のように垂れ下がり、俗に乳イチョウとも呼ばれます。また昔から、このイチョウの葉が一気に落ちると大雪が降るといわれています。

福地の化石産地（国指定）は、古生代のデボン紀・石炭紀・二畳紀層が分布し、約 2 億 5 千万年前から約 4 億年前の化石が層状になって産出する場所で、県下においても地質時代最古の化石産地の一つです。

(5) 伝統的建造物群

三町と下二之町大新町の二つが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。旧城下町南半の三町は江戸時代末期から明治初年にかけて建てられた、洗練された意匠の町家が多く建ち並ぶ町並みで、旧城下町北半から越中街道筋に遺る下二之町大新町は、明治時代から昭和30年代にかけての各時代の特徴をもつ町家が多く建ち並ぶ町並みです。いずれも江戸時代の商家町の地割をよく残し、前面道路に接して間口いっぱいに主屋を建て、背後に中庭を介して土蔵が建ちます。主屋は切妻造、二階建またはつし二階建、平入で、真壁造を基本とし、一階と二階の壁面を揃えます。屋根の勾配は緩く、深い軒を出し、小庇を付けます。技術的、意匠的に質の高い町家が、商家町の歴史的風致を伝えます。



写真 27 高山市三町伝統的建造物群保存地区



写真 28 高山市下二之町大新町伝統的建造物群保存地区

2 未指定文化財

未指定文化財については、令和5年度(2023)から実施した拾い出し調査や、市民ワークショップ等により把握を行っており、令和7年(2025)3月現在5,883件把握しています。文化財の保存技術は屋台修理技術の1件を把握しています。

■未指定文化財件数（令和7年(2025)3月）

種 別		高山	丹生川	清見	莊川	一之宮	久々野	朝日	高根	国府	※上宝	全域	計	
有形文化財	建造物	243	68	38	20	26	34	43	27	24	33		556	
	美術工芸品	絵画	141	4	1	8	4	1	6	1	14			180
		彫刻	171	58	16	2	7	3	32		10	88		387
		工芸品	29	4	6	10	9	1	2		2			63
		書跡	42		3		4		7		1			57
		典籍	18	1			1		3	1				24
		古文書	11	26	28		4	10				5		84
		考古資料	83	84	31	37	47	13		2	3	4	1	305
歴史資料	20	9	6			3	8		4	1		51		
無形文化財		2											2	
民俗文化財	有形	衣食住・年中行事	13						1			1	15	
		生産・交通	2			1	1	1	1				6	
		信仰・祭礼	61	467	23	13	33	8	21	37	5	460		1,128
		芸能・娯楽						1						1
	無形	風俗慣習	82	48	10	10	10	1	6	4	19	6	5	201
		民俗芸能	39	20	9	7	2	10	10	9	19	5		130
		民俗技術	21	10	9		11	1	3	1				56
		口頭伝承	55	106	25	51	19	4	2	8	90	3		363
記念物	遺跡	361	134	54	53	72	39	42	43	98	58		954	
	名勝地	16	3	12	11	4	6	26	21	9	19		127	
	動物、植物、地質鉱物	8	13	4	8	2	2	9	7	18	11		82	
文化的景観		13			2			1		1	2		19	
伝統的建造物群		1											1	
小計		1,432	1,055	275	233	256	138	218	157	316	695	7	4,792	
埋蔵文化財包蔵地		252	48	34	42	46	19	40	11	555	44		1,091	
合計		1,684	1,103	309	275	302	157	262	173	872	739	7	5,883	

※上宝は奥飛騨温泉郷を含む

(1) 有形文化財

① 建造物

旧高山城下町は、伝統的な町家や、商家、寺院などの建造物が多く、明治以降の近代建築なども特徴的なものが見られます。市内全域は、集落ごとの神社や、寺院などの建造物が多く見られます。また、歴史ある学校校舎の建物などもあります。



写真 29 野麦学舎

② 絵画

絵画は、各寺院の阿弥陀如来像などの仏画や、聖徳太子や親鸞上人などの肖像画、神社に奉納された絵馬などがあります。

③ 彫刻

彫刻は、各寺院の本尊などの仏像が多く、特に上宝・奥飛騨温泉郷、丹生川、朝日地域に円空仏が多く見られます。

④ 工芸品

工芸品は、寺社の宝物が多く、刀剣や神鏡、陶磁器などがあります。

⑤ 書跡

書跡は、真宗の高僧による名号など、寺院関係のものも多く見られます。典籍は、経典など寺院関係のものも多く見られます。

⑥ 典籍

典籍は、経典など寺院関係のものも多く見られます。

⑦ 古文書

古文書は、高山や、丹生川、清見、上宝・奥飛騨温泉郷、久々野地域などは、区有文書など地域ごとに整理した文書資料が多く見られます。また寺社の縁起や、検地などに関わる資料もあります。

⑧ 考古資料

市内の遺跡や古墳などの発掘調査による出土品が多く見られます。

⑨ 歴史資料

寺社の棟札など各種の資料が見られます。

(2) 無形文化財

小糸焼、山田焼、渋草焼の製作技術などがあります。

(3) 民俗文化財

① 有形の民俗文化財

衣食住・年中行事に関わるものに、各支所地域で収集された多くの民具資料があります。

生産・交通に関わるものに、猪垣や道標があります。

信仰に関わるものに、石仏、供養塔、道祖神などが上宝・奥飛騨温泉郷、丹生川地域や、高根町日和田地区は特に調査が進められていたこともあり、多くの件数が見られます。高山地域は火伏の神である秋葉様の祠が多く見られます。また祭礼に関わる特徴的なものに、祭屋台が挙げられます。指定文化財である高山祭の屋台のみでなく、朝日、荘川、清見、久々野地域なども奏楽の太鼓を載せた神楽台があります。

芸能・娯楽に関わるものに、久々野地域の村芝居の廻り舞台があります。

② 無形の民俗文化財

風俗慣習に関わるものに、神社ごとに行われる祭礼行事や、盆踊りや報恩講、節分やどんど焼きなど、各種の年中行事などがあります。また宴席でのめでたの風俗慣習など特徴的なものも見られます。

民俗芸能に関わるものに、多くの神社の祭礼で、獅子舞や、鬮鷄楽などともいわれる鉦打ち芸能が行われていますが、伊勢神楽や金蔵獅子、神代踊などの特徴的な芸能や、荘川地域の村芝居などの舞台芸能も見られます。

民俗技術に関わるものに、曲木細工や炭焼きなど生業に関わる職人の技術、年取りのごつつおや漬物など衣食住に関わる技術があります。

独自の区分である口頭伝承は、両面宿禰の伝説などの説話や、労働歌など各種の民謡などもあります。



写真 30 荘川の村芝居(荘川神社)

(4) 記念物

① 遺跡

古墳や古代の住居址、中世の城館跡、古代や中世の寺院跡、街道や口留番所等の跡、顕彰碑や文学碑など、多様なものが見られます。

② 名勝地

山岳、滝や溪谷、湿原地や峠、特色ある岩石など、豊かな自然景観を有する場所が多くあります。

③ 動物、植物、地質鉱物

寺社にゆかりのある桜やスギ、マツなどの樹木、湿原地帯の植物、乗鞍岳のハイマツやコマクサなどの高山植物など、特色ある植物を主として、多くのものが見られます。

(5) 文化的景観

上宝町長倉や荘川町一色・惣則、滝町の棚田景観などがあります。

(6) 伝統的建造物群

良好な歴史的景観を保持している寺町空町地区の伝統的建造物群などがあります。

(7) 埋蔵文化財包蔵地

埋蔵文化財は、過去に岐阜県や合併以前の高山市・国府町・宮村が行った詳細分布調査により、市内は1,091箇所¹の周知の埋蔵文化財包蔵地が確認されています。地域別にみると、高山地域252、丹生川地域48、清見地域34、荘川地域42、一之宮地域46、久々野地域19、朝日地域40、高根地域11、国府地域555、上宝・奥飛騨温泉郷地域44です。

時代別は、縄文時代の遺跡が最も多く、次いで国府地域を中心とした古墳の数が多いためです。一方で、平地に分布する弥生時代から中世にかけての集落遺跡等は、開発の影響や調査があまり行われていないことも相まって、全体として数は少ない傾向です。

3 関連する制度

本市は、指定・選定・登録の文化財とは別に、ユネスコ無形文化遺産、文化庁の認定に基づく日本遺産、ユネスコエコパークがあります。

(1) ユネスコ無形文化遺産

ユネスコ無形文化遺産は、芸能（民族音楽・ダンス・劇など）、伝承、社会的慣習、儀式、祭礼、伝統工芸技術、文化空間など無形の文化遺産を保護するために、ユネスコが「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」を策定し、その保護を進めようとするものです。これまでに、日本は「能楽」「歌舞伎」「和食」など23件（令和7年(2025)3月現在）が登録されています。



写真 31 高山祭屋台

平成28年(2016)12月1日、エチオピアのアディスアベバで開催されたユネスコ無形文化遺産条約第11回政府間委員会において、「高山祭の屋台行事」を含む日本の「山・鉦・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産代表一覧の記載（ユネスコ無形文化遺産登録）が決定しました。「高山祭の屋台行事」を含む「山・鉦・屋台行事」とは、地域社会の安泰や災厄防除を願い、地域の人々が一体となり執り行う「山・鉦・屋台」の巡行を中心とした祭礼行事のことです。国内33件（令和7年(2025)3月現在）の国指定重要無形民俗文化財である屋台行事等で構成されており、各地域の特色ある文化が反映され、粋で華やかな飾り付けが特徴です。

高山祭の屋台の特徴は、均衡の取れた優雅なフォルムと、すみずみまでいきわたった細やかな装飾の美しさで、木工・漆箔・彫刻・^{かざり}銚金具・人形・鍛冶・染色・織物などに想像し得る最高のかたちを創出しようとしたところにあります。こうした職人技の粋を調和しながらプロデュースし、一台の屋台に統合した旦那衆の美意識と、屋台を大切に守り伝えてきた町人たちの情熱が、「高山祭の

屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録へとつながったと言えるでしょう。

(2) 日本遺産

「日本遺産 (Japan Heritage)」は、文化庁が認定する地域の歴史的的魅力や特色を通じて日本の文化、伝統を語るストーリーです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備、活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。



写真 32 構成文化財 田上家住宅

日本遺産の第1回の認定である平成27年度に全国で18件が認定され、翌平成28年度の第2回の認定は、4月25日に本市の「飛騨匠の技・こころ一木とともに、今に引き継ぐ1300年―」を含む19件が認定されました。

ストーリーは、木と共に生きてきた1300年の歴史を体感するものとなっており、大きく「飛騨工制度と匠の技・こころ」「飛騨匠の遺した作品」の二つのまとまりで構成されています。

【名称】

飛騨匠の技・こころ一木とともに、今に引き継ぐ 1300 年―

【ストーリーの概要】

「飛騨工制度」は国が古代に木工技術者を都へ送ることで税に充てる全国唯一の制度で、飛騨の豊かな自然に育まれた「木を生かす」技術や感性と、実直な気質は古代から現代まで受け継がれ、高山の文化の基礎となっています。

市内は中世の社寺建築群や近世・近代の大工一門の作品群、伝統工芸など、現在でも様々なところで飛騨匠の技とこころに触れることができます。

これは私たちが木と共に生きてきた 1300 年の高山の歴史を体感する物語です。

【構成文化財】

文化財の名称	指定等状況	文化財の名称	指定等状況
いしばはいじとうしんそ 石橋廃寺塔心礎	市有形(考古資料)	じんや おんくら 高山陣屋(御蔵)	国史跡
石橋廃寺跡出土品	市有形(考古資料)	国分寺三重塔	県重文
こうじゆあん 光寿庵跡	市史跡	だいおうじ 大雄寺山門	市有形(建造物)
光寿庵跡出土瓦	県重文	ひがしやまはくさん はいでん 東山白山神社拝殿	未指定
飛騨国分寺塔跡	国史跡	ほっけ じぼんじんどう 法華寺番神堂	市有形(建造物)
飛騨国分寺の大イチョウ	国天然記念物	東照宮本殿	県重文
こくぶん に じ 国分尼寺金堂跡	市史跡	よしじま 吉島家住宅	国重文
あんこくじ きょうぞう 安国寺経蔵	国宝	くさかべ 日下部家住宅	国重文

あらき 荒城神社本殿	国重文	たうえ 田上家住宅	市有形(建造物)
あたゆた 阿多由太神社本殿	国重文	だいおうじしやうどう 大雄寺鐘堂	県重文
熊野神社本殿	国重文	おもてもん 国分寺表門	市有形(建造物)
しょうれんじ 照蓮寺本堂	国重文	ふじしゃ 富士社殿	市指定(建造物)
国分寺本堂	国重文	こつぽかね 小坪規矩目録	未指定
ひだのたくもつかくだいみょうじん 飛騨匠木鶴大明神像及び版木	市有形民俗	たくみ でんしゆ 飛騨内匠流大工秘密傳受 ひだのかみ 飛騨守内匠流秘事抜書 ばんしやう 番匠取締規定書	未指定
ふじわらむねやす 藤原宗安像	未指定	しゆんけい 飛騨春慶	記録作成等の措置を講ずべき 無形文化財 伝統的工芸品
たかやまじょうせき 高山城跡	県史跡天然記念物	きじし 木地師の集団墓地	市有形民俗
うんりゆうじしやうろうもん 雲竜寺鐘楼門	市有形(建造物)	いちいいてうぼり 一位一刀彫	未指定 伝統的工芸品
そげんじ 素玄寺本堂	市有形(建造物)	たかやまつり 高山祭屋台	国有形民俗、県有形民俗
えまでん 神明神社絵馬殿	県重文	うとうしゃくし 有道杓子	市無形民俗
ほっけじ 法華寺本堂	県重文		

(3) ユネスコエコパーク

ユネスコエコパークは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共存）を目的とする取り組みで、ユネスコ人間と生物圏計画における一事業として実施されています。日本は、「屋久島・口永良部島」「南アルプス」「甲武信」など10か所が登録されています。

白山ユネスコエコパークは昭和55年（1980）に登録された後、平成28年（2016）に移行地域が拡張登録されました。登録範囲は4件7市町村にまたがり、本市は荘川地域が登録範囲に含まれます。白山ユネスコエコパークは、高山であること、世界有数の豪雪地域であること、高山植物の宝庫であること、多様な動植物を育む広大なブナ林があること、山村に適した生活や文化を育んできたこと、四つの水系の源であること、人々の信仰を集めてきた山であること、白山の恵みを活かし、大切に守ってきた人々がいることの八つの特徴があります。